びに右の結果、決定を見た向後における帝國不動の對支根本國策の内容を御説明申上ぐ。

これに對し、畏くも、閑院、伏見兩總長宮殿下より極めて重要なる御發言あらせられ、議事は敬肅に進めらる。

會議は一時間十分にして午後三時滯りなく終了。

かくて帝國政府の對支根本國策は、この御前會議の決定に從ひ、儼然として敢行されることとなつた。

まさに世界史の一大轉換をなすべき聖戰の目的は確乎不動の確立を見るに至つたのである。

帝國の重大聲明

政府は十五日、大本營との連絡會議において帝國不動の對支新方針を決定し、近衛首相は同夜八時四十分、宮中に參内、天皇陛下に拜謁仰付られ、連絡會議並に臨時閣議において決定した新對支積極方針及びそれに關する帝國政府の聲明につき委曲奏上御裁可を仰いだ後、一月十六日正午、次の重大聲明を發表し、帝國の態度を中外に闡明した。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

「帝國政府は南京攻略後、尚ほ支那國民政府の反省に最後の機會を與ふるため、今日に及べり。然るに國民政府は帝國の眞意を解せず濟りに抗戰を策し、内民人塗炭の苦しみを察せず、外、東亞全局の和平を顧みる所なし。仍て帝國政府は爾後國民政府を對手とせず、帝國と眞に提携するに足る新興支那政權の成立發展を期待し、是と兩國國交を調整して更生新支那の建設に協力せんとす。元より帝國が支那の領土及び主權並に在支列國の權益を尊重するの方針には毫もかはる所なし。今や東亞和平に對する帝國の責任愈〻重し。

政府は國民が此の重大なる任務遂行のため一層の發奮を冀望して止まず」

――こゝに本格的なる長期總力戰の新しき段階に入るのであつた。

一月十八日、帝國の對支重大聲明中「國民政府を對手とせず」といふ字句に關し、風見書記官長は、政府の意向を説明して、その意義を明かにした。

――「『對手とせず』といふ言葉は、國民政府を否認するといふよりも強い意味を持つてゐる。何故ならば支那における新興政權を直ちに承認することによつて、その反對效果として國民政府を否認するのではなくて一方的に「對手とせず」といふ強力な意志表示だからである。又これに關聯して宣戰布告の問題が論ぜられてゐるやうだが、宣戰布告は帝國政府が支那國家國民を對手

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

とする意味であるが、既に帝國政府は國民政府を以て支那國家國民を代表するものにあらずと斷じ、東洋平和のため只一途これが絶滅の聖戰を進めるとの意圖を以て「對手とせず」と決定したのであるから、この點我が方の意志は宣戰布告よりも強いのである。」

――この宣戰布告よりも強力なる國民政府絶滅の聖戰こそ、まさに今次事變の最大目的に外ならないのである。

海外の反響

ロンドンにあつては、一齊に、日本政府の聲明に對し甚しき反感と反對を表明した。

十七日、タイムス紙は――「平時における隣國政府の否認は重大な意義を持つものであるが、既に六ケ月間に亘り蔣介石政府の崩壞に全力を盡し來つた日本が、今更ら同政權無視を聲明したところで、これに驚ろくものは無いであらう。又支那は寧ろこれによつて激勵されたかも知れない。殊に右聲明によつて平和交渉に關する日本の態度を頑固なものと見せかけたため却つて支那側の反抗を買ふ樣な逆效果を齎らすかも知れぬ。聲明書の調子から見ても侵略者たる日本は漸次デイレンマに陷る如くである。この日本のデイレンマはドイツをも含む世界各國に周知の事

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp